

# カーブ アップ 船舶ファンド拡充へ

## 国内船主 共有視野 バルカーも対象

船舶投資ファンドのアンカー・シップ・インベ  
ストメント社は、今月から第2号ファンドの組成に向け投資家への説明を開始した。2号ファンドは2000億円超を予定。2007年5月に組成した1号ファンドを上回るファンドの組成を見込む。コンテナ船や大型原油タンカー(VLCC)など従来の高付加価値船に加え、2号ファンドではバルカーも対象に加え、国内船主との共有も視野に入れるなど、運用

面でも新たな要素を加える。アンカーは日本初の本格的な船舶ファンドとして07年1月に発足。1号ファンドは2000億円弱の規模で組成し、10月末までに当初予定した組成の最大投資枠にほぼ近づいた。今回、新たに2号ファンドを組成、外航海運中心に船舶資金の多様なニーズに対応していく方針。

具体的には1号ファンドの基本方針である①海運大手への長期間

船貸し出し②基幹船隊に位置付けられる船舶への投資が前提。2号ファンドではこれに加え、資金ニーズが増している国内船主との共有船を検討する。

アンカーは船舶の建造意欲のある国内船主に対し、資金を提供することで共有船主として船舶を保有。船舶管理は共有パートナーの船主が中心になり担当し、海運大手へ定期用船貸し出しする。

従来、投資ファンドの

アンカーは船舶保有だけを対象とする裸用船が主体だった。2号ファンドでは船主と船舶を共有することで定期用船にも積極参入、オペレーター(運航船社)のニーズに対応する。

2号ファンドではこれ以外にも大手商社との提携を視野に入れる。商社の多様な機能とファンドを相互補充し、船舶資金のニーズを開拓する。